

学校法人 四国大学

四国大学短期大学部

機 関 別 評 価

財団法人 短期大学基準協会

## 四国大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 四国大学
理事長	佐藤 一郎
学 長	福岡 登
A L O	上田 喜博
開設年月日	昭和36年4月1日
所在地	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1

### 設置学科および入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
ビジネス・コミュニケーション科		70
生活科学科	生活デザイン	25
生活科学科	食物栄養	40
生活科学科	生活福祉	50
幼児教育保育科		110
音楽科		25
	合計	320

### 専攻科および入学定員（募集停止を除く）

なし

### 通信教育および入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

四国大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

さまざまな行事、式典、印刷物、ウェブサイトなどを通して教育理念を広報し、短期大学の姿勢を示している。

短期大学としてふさわしい教育内容を有し、教育課程の編成もおおむね体系的に適切なものとなっている。また、改善への努力もみられる。

教員と職員が一体となって、学生指導にあたっていることは高く評価される。特に学生の指導のために多数の事務職員（学事事務職員）を配置していることは特筆すべきである。また、設備や図書館なども併設の四国大学との併用であるが、充実しており、地域文化への貢献を果たしている。

教育目標の達成度と教育の効果については、全人的自立の理念を達成すべく、組織的で地道な教育努力が続けられている。

学生への支援体制は、併設の四年制大学と連携しつつ、全学的、組織的に行われている。教職員全員が一丸となって、学生を支援すべくよく努力をしており、その支援内容は充実している。特に資格取得を目的とする学科（資格取得系）では、入学からインタ

ーンシップ、就職、その後までの一連の仕組みが地元で根ざした形で作り上げられている。

短期大学全体が、研究活動に理解があり、それに対する諸条件の整備も行き届いている。また、徳島地域との連携を重視し、さまざまな点でかかわりを有している。

併設の四国大学とともに、地域に開かれた短期大学を自負し、活発に社会的活動を行っている。また、学生の活動への支援体制も整えられ、徳島名物の阿波踊りへの大学の”連”としての参加実績には定評がある。国際交流も継続して実施されている。

理事会、評議員会は寄附行為の規定に基づいて、定例的に開催され、理事長も長年培われた識見と豊富な経験をもとに、学校法人運営全般にわたりリーダーシップを発揮している。監事もその機能を適切に遂行している。教授会も学則の規定に基づき定例的に開催され、また各種委員会も目的に応じて適宜開催されている。教職員の意思疎通も十分に図られており、各々の役割に応じた責務を果たしている。

学園全体の収支状況は、良好に推移、また財政状況も、健全に推移している。短期大学の収支もほぼ均衡している。予算の編成の手続、予算執行、資金資産の管理も適正に行われている。必要な施設・設備も整備され、それぞれの管理責任者、使用責任者が適切に管理を行っている。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 現代社会において必要とされる教養教育のために「自己表現論」という科目を設け、全学生を少人数グループに分け、徹底した教育指導を行っていることは、優れている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 事務組織における学事事務職員の配置は、学生指導に大きな役割を果たしている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 資格取得系の学科専攻については、学生の入学時より目標は明確であり、卒業後の進路就職に直結した教育が組織的、制度的に行われ成果を上げている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 教員だけでなく教務、学生、就職などの学事事務部門が、学生とのコミュニケーション、指導・支援などの面から非常に効果的に機能していることは特筆される。建学の精神（全人的自立）の具現化のために、短期大学全体として組織的、制度的、継続的に取り組んできた点は評価できる。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 生活デザイン専攻で、徳島の企業などと連携して、研究活動を進行している点は、高く評価できる。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- オープンカレッジは、内容、開催回数ともに充実しており、地域社会に対する貢献度は高い。
- 図書館における「凌霄文庫」の存在は、地域文化に貢献している。

#### 評価領域Ⅸ 財務

- 将来の施設設備などの拡充に備えて、第2号基本金を目標ごとに定め、諸引当特定資産を計画的に積立てている。

#### 評価領域X 改革・改善

- 理事長自身が短期大学の現状をよく把握しており、改革・改善に非常に前向きな姿勢が認められる。

#### (2) 向上・充実のための課題

#### 評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- 履修人数が著しく少ない科目のあり方について検討されたい。

#### 評価領域V 学生支援

- 支援体制およびインフラは併設四年制大学と連携しており充実している。そのメリットは学生には大きいものの、一方で短期大学独自の取組みも期待される。

#### 評価領域VI 研究

- 展覧会、演奏会、教育に資する研究活動などを含め、研究活動全般に係る評価方法、基準などの検討が望まれる。

#### 評価領域VIII 管理運営

- 理事、評議員について、幅広い人材登用を図り、より外部性を高めることも検討されたい。

#### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし